

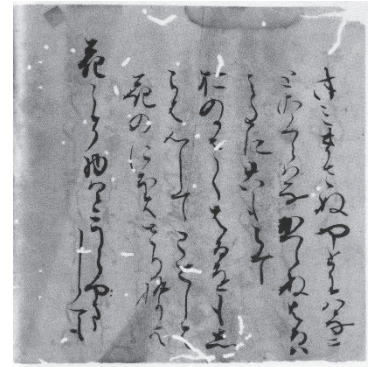
## 日本文学関係の古文献の調査、研究

教育学部 中等教育学科 国語教育コース 山崎 桂子

Keywords: 古文献、和書、調査、目録

### 1. 新出資料との出会い

京都今出川に邸を構える冷泉家（藤原定家の子孫宅）の御文庫が開かれたのは昭和 55 年のことであった。文化庁の調査が入り、国宝・重文級の典籍・文書が続々と出現した。大きく報道され、古典文学研究者のみならず世間の耳目を集めた出来事であった。平成 9 年、この中に土御門院関係の新出資料があるらしいとの情報を得たものの、非公開の壁に阻まれ、待つこと 4 年。平成 13 年に写真版で公刊されたのを機にこの資料の研究に着手した。



土御門院女房日記 部分

### 2. 『土御門院女房日記』

書名も作者も不明だが、調べてみると、第 83 代土御門天皇（1195～1231）に仕え、寵を受けたある女房が書いた歌日記であることが判明した。土御門天皇は承久の変により四国へ流され亡くなるが、配流の時から崩御までを和歌で追慕し、追悼した内容である。今まで全く知られていなかった新しい文学作品の出現である。これを翻刻し、注釈を加え『土御門院女房日記』という書名を与えて出版した（『土御門院女房日記新注』2013.7 青簡舎）。今後はこの日記の作者の特定、文学史上への位置づけを試みたいと考えている。

### 3. 文献調査の現状

このような出会いは研究者の生涯でも稀有なことで、もはやそのような僥倖は望むべくもない。日本の古典文学作品については、国文学研究資料館による各種文庫等所蔵機関の文献調査が全国的になされ、目録が整備されている。今日、それらの成果はマイクロ/デジタル資料となって、多くが訪書することなく閲覧可能となっている。当県でも池田家文庫（岡山大学）、黒川文庫（ノートルダム清心女子大学）などが貴重な典籍を保存し公開している。

### 4. 新たな出会いを求めて

では、もう文献調査は不要なのかと言うと、そうではないだろう。地域に人知れず残されたままの古文献はまだあるはずで、それらの調査・研究がなされ、地域の人々に紹介されねばならない。身近な地域の文化遺産の発掘である。古文書（主として漢字で書かれたもの）は歴史研究者や愛好家によって解読され、研究されているが、仮名の文献（変体仮名で書かれたもの）は等閑視されがちである。郷土の文人の日記や書簡の解読も可能である。本県の文庫、文学館、郷土館、図書館、博物館、美術館等で未調査のまま埋もれている文献があれば、新たな出会いを求めて連携し、調査・研究・発信に努めたい。

連絡先 TEL:086-256-9404,E-mail:yamasaki@ped.ous.ac.jp